

27年9月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年9月1日～ 27年9月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		27/9月	10月	11月
伐採動向	スギ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	ヒノキ	△ 30.0	0.0	10.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
出荷・販売動向	スギ	△ 16.7	△ 33.3	△ 25.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
手持立木在庫動向	スギ	△ 25.0	△ 8.3	△ 25.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
	カラマツ	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	33.3	0.0	0.0

・スギ、カラマツ及びエゾ・トドの伐採は、3ヵ月連続して減少。ヒノキは9月の減少が、10月横ばい、11月はやや増加。

・素材の出荷・販売は全樹種共に3ヵ月連続して減少。

・手持ち立木在庫は、スギ、ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは9月の増加が10月、11月は横ばい。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のトドマツ間伐の素材生産請負に入っているため、平均的な伐採動向である（北海道）。
- ・国有林請負実行中だが、来月から民有林の伐採を始める（関東）。
- ・間伐中心に移行（中国）。

(出材・販売動向)

- ・現在、販売等で出材調整のものはない。カラマツの販売がしづらいとの情報がある（北海道）。
- ・国有林の請負事業をやっており、出材はしていない（北海道）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ち立木に不足感がないので、適宜、良い立木物件があれば公売で購入する予定（北海道）。
- ・国有林の立販物件を新規受注したので在庫が増加（北海道）。